



【発行所】  
 独立行政法人国立病院機構 岩手病院  
 岩手県一関市山目字泥田山下48  
 Tel : 0191-25-2221  
 Fax : 0191-25-2157  
<https://iwate.hosp.go.jp/>  
 発行責任者 豎山 真規

7月16日 あすなるフェス開催

保育士 吉家 菜津美

7月に入り、岩手病院あすなる病棟は、七夕にちなんで患者さんの素敵な願い事が書かれた短冊と色とりどりの七夕飾りで彩られました。

今年のあすなるフェスは、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催の是非から検討した結果、ご家族の参加も外部ゲストもなしで行うこととしました。患者さんの生活にも制限がかかり始め、少なからずストレスを感じている状況だからこそ、患者さんの生活をいつも通りに、そして行事を行うことで楽しんでもらえるように実施することとしました。

当日、各あすなる病棟では風船プレゼント、お楽しみくじ、アイスクリーム会食、盆踊りが行われました。患者さんは天井一面に広がった風船に目を輝かせ、思い思いに好きな色の風船やお楽しみくじを手にとっていました。アイスクリームが運ばれてくると、その日1番の歓声が病棟に響き渡りました。冷たいアイスクリームを口にしてニコニコしたりビックリしたり様々な表情です。そして、最後の職員による盆踊りでは、はっぴを着た看護師や保育士の踊る姿を見て、患者さんたちは大喜びし、職員の誘う輪の中に入ると声を出して笑ったり、職員を真似て踊ったり、その様子を見てさらに喜んだり、と

でも賑やかな時間でした。

3階療育訓練室では輪投げ、駄菓子釣り、水ヨーヨー、風船の縁日コーナーを設置しました。病棟以外の部門の職員が各コーナーに立ち、あすなる病棟や一般病棟の患者さんも来場し楽しんでいました。特に大人気だったのが駄菓子釣りコーナーですが、駄菓子だけではなく、今話題のアニメや人気アイドルグループ、演歌歌手のポストカードが釣れるとあって、患者さんたちは欲しいものにねらいを定め、真剣な眼差しで職員と釣りを楽しんでいました。最後はダンスステージですが、児童指導員と保育士によるアイドルグループ嵐の「手洗い体操」で締めくくりました。患者さん、看護師、他の職員も一緒に踊ると一体感で会場に笑顔が溢れました。

今回はご家族との思い出になる1ページにはできませんでしたが、患者さんと職員が一緒によろこび、触れ合えた思い出深い時間となりました。この手作り感満載のフェスが、病院職員から患者さん方へのちょっとしたプレゼントになっていれば嬉しく思います。行事を終えて、いつも慰問に来ていただき、行事を盛り上げて下さる地域の方々への感謝の気持ちを改めて感じました。



## 院内カンファレンス ここに注意！ハイリスク薬

調剤主任 平川 桂輔

7月9日、職員を対象にハイリスク薬についての院内カンファレンスを行いました。

ハイリスク薬とは、使い方を誤ると患者さんへ健康被害をもたらす可能性のある「リスクの高い薬」を総称していいます。代表的なものとして、インスリンなどの血糖を下げる薬が挙げられます。そのような薬を患者さんへ安心安全に使うために、どのようなことに注意すればよいのかというこ



とを話しました。

薬剤の取り間違いや誤投与をなくすため、全国の医療現場では様々な工夫をしながら防止に努めていますが、残念なことにその数をゼロにすることはできていません。当院薬剤科でも注意する薬剤に対しては、注意文書を添えるなどしています。今後も患者さんの安全のため、継続して防止に努めていきたいと思ひます。また、このような学習の機会を定期的にもち、病院スタッフの薬剤に対する意識づけにつなげていきたいと思ひます。

## 院内カンファレンス ハイリスク薬剤 インシデント報告を通して

医療安全管理係長 齋藤 邦彦

7月9日、「危険薬剤について」をテーマに院内カンファレンスを開催しました。研修には、医師、看護師をはじめ様々な院内の職員が参加しました。

その後半で私は、岩手病院であった薬剤に関するインシデント事例をもとに薬剤の取り扱い、管理について、その事例から感じたことなどについて話しました。この研修を行うことで



薬剤へ関わることへの責任を強く感じてもらえたのではないかとと思ひます。薬剤の取り扱いで不明なこと困ったこと等があれば、自分のために、何より患者さんのためにも、そのままにせず薬剤師や上司に相談しましょう。

今回、研修に参加した職員は参加できなかった職員へ研修内容を伝達していただき、患者さんに質の高い安全な医療を提供できるように病院全体で取り組んでいきましょう。

## 医療安全研修 MRIについて

撮影透視主任 岩崎 修

6月9日と7月14日に、同じ内容でMRI安全研修を開催しました。研修は2部構成で行い、研修前半は講義、後半は実際にMRI室でMRI装置に金属がどれくらい引っ張られるかの磁場体験です。

講義ではスライドを用いてMRIの概要、MRI検査に対応している医療器具の紹介、実際に起こった金属による吸着事故例、火傷のリスクが高まる衣類や患者体位など多岐に渡る事項を説明しました。



MRI検査室での磁場体験ではクリップを持ち、目に見えない磁力がどのように作用するか体験し、また実際に金属がMRI装置に引っ張られ飛んで行く様子を確認してもらいました。参加者は、自分が想定する以上の力で引っ張られることを実感し、実際に磁場体験をしたことでMRI装置の安全利用への理解が深まったと思ひます。

年内には今回参加出来なかった部署に個別にこの研修を行っていく予定です。この研修は来年度以降も引き続き行っていき、MRI検査を安全に行える環境を整えて行きたいと思ひます。

## 病棟窓ガラス清掃について

事務部長 佐藤 俊典

5月25・26日に病棟の窓ガラス清掃を実施しました。委託業者の作業員が屋上から壁面にロープを垂らし、登山用の器具を使いぶら下がり、上の階から下の階へと順番に1階ずつ窓をきれいにしていきます。安全に留意しているとは思ひますが見てい

てハラハラします。今回は何事もなく無事終了いたしました。作業員の皆さんありがとうございます。





## 新型コロナ禍の中で

副看護部長 千葉 洋子



日本全国で新型コロナウイルス感染症が増加する中、岩手県だけはしばらく感染ゼロでした。

当院では感染制御チームが率先し、発熱来院患者対応エリア、患者家族の面会制限、来院者の体温チェック等を3月から始めました。4月からは、自分達職員が感染しないよう健康管理・行動歴を各自記録し、3密回避の研修も実施しました。新型コロナウイルス感染症対策本部が立ち上がり、本部長である病院長から県及び二次医療圏の医療提供体制・当院の役割の説明がありました。当院の役割は、神経筋難病と重症心身障がい・回復期リハビリの診療機能の堅持で、院内感染対策に備える必要性を理解しました。また、当院は感染症指定病院ではありませんが、輪番で二

次救急を受け入れる病院です。危機意識を持ち発熱患者に対応する必要があるため、新型コロナウイルス感染症を否定できない場合の外来診察から入院までのシミュレーション訓練を6月に行い対応の整備をしています。7月末に岩手県で感染者が出てからは一層緊張感が高まり、面会はオンラインに切り替え、マスクを外す休憩もソーシャルディスタンスを保ち各々が互いに濃厚接触者にならないよう取り組んでいます。

新型コロナ禍の中で、最前線で働く医療従事者の映像がテレビに何度も流れました。その医療従事者の懸命な姿に感動を覚えると同時に、世界中から賞賛されていることを嬉しく思っています。医療従事者の一員として、適切な情報と根拠に基づき、地域医療に貢献できるよう努めてまいります。

## 行事食とおいしい記念日について

管理栄養士 星 佳織

栄養管理室では、患者さんの栄養管理とともに食事提供における給食管理および衛生管理を行い、治療に貢献できるよう努めています。入院生活が長期にわたる患者さんにとって食事は楽しみの一つであるため、喜んでいただけるよう美味しい食事の提供を日頃より心がけています。そして、エネルギーや食塩相当量などの栄養価や、刻み食・ミキサー食など患者さんの機能に合った食事形態といった様々な制約がある中で、入院中も季節感を感じていただけるよう毎月1回以上の「行事食」を実施しています。

最近の行事食の取り組みとして、6月には水無月御膳(図左)、7月には七夕御膳(図中)を実施しました。普段から味付けや盛り付けには気を配っていますが、行事食の日はさらに見栄え良く特別感を感じていただけるよう厨房スタッフも気合いが入ります。6月は新生姜の炊き込みご飯や旬のスナッ

えんどうのお浸し、7月は七夕にちなんだ華やかな盛り付けの冷麦、デザートにはさくらんぼやすいかなど季節感のある食材を揃えました。いろいろな行事や季節に合わせた食事を提供する際には、行事食カードをお膳に添えてお配りしています。カードをベッドサイドに飾ってくださる患者さんも多く、行事食を提供した際の患者さんの笑顔が私たち栄養管理室の活力になっています。

今年度から「おいしい記念日メニュー」という新しい取り組みを始めました(図右)。食べ物に関する記念日を取り上げることで知的好奇心を刺激し、食への関心を高め、楽しく食べていただくことを目的としています。日付の語呂合わせや食べ物や行事の由来と結びついたものを紹介しており、患者さんからは、「初めて知りました。おもしろいね」といった感想を頂きました。「おいしい記念日」を通して、その食べ物をより身近に感じていただければと思います。



**診療体制 (令和2年9月1日現在)**

診療科		月	火	水	木	金
脳神経内科	午前(再来)	豎山	工藤 ※物忘れ外来、頭痛など	千田(圭)	千田(光)	今野
	午前(新患)	千田(光) (第1、3) 今野 (第2、4)	阿部	豎山	小野	千田(圭)ほか
	午後	※HAL外来 今野 (第1、3、5週)				※リウマチ科 千葉(実) (最終金曜)
呼吸器内科		芦野	櫻井	芦野・森 (禁煙外来)	櫻井	芦野
内科					阿部	佐藤(良)
外科		平野 予約者のみ	平野 予約者のみ		平野	
小児科			田澤 ※第2週休診			※重症心身障害 大沼
リハビリテーション科		佐藤(智) ※ボトックス外来、AGA外来など			宮	
歯科		佐藤(敦)	佐藤(敦)	佐藤(敦)	佐藤(敦)	
その他	※予約に関するお問い合わせは14:00～15:00にお寄せ下さい。 ※専門外来は、すべて予約制です。 ※予防接種は、火・木9:00～11:00に完全予約で行います。			※心療内科 伊藤 ※消化器内科 仙台医療センターから ※アレルギー科(第2週) 千葉(友)	※皮膚科 東北大学から	※循環器内科 渋谷 (第1、3週)

**職場紹介 — 施設管理室 —**

施設管理室は、平成23年10月に発足しました。前身はサービス班…ご存じでしたか？ 現在、6人で業務を行っています。

ボイラー技士(3人)は、病院内の温度管理、空調管理、井戸水を上水として使用しているため井水管理も実施しており、ライフラインそのものを管理する職場となっています。

自動車運転手(1人)は、訪問診療、訪問看護の送迎業務や患者さんの搬送業務を行っています。

営繕手(1人)は、物品の修繕や自前で作成することによるコスト削減に努めています。

電気士(1人)は、蛍光灯交換から電気関係全般の点検・管理を行っています。

施設管理室のメンバーは、ボイラー・危険物はもちろんのこと、溶接・クレーン・ホークリフト・小型重機運転などの資格を有しています。環境整備は夏は草刈り・植木剪定・枯れ木倒木の伐採、秋に

は落葉清掃、冬は除雪作業と多岐に渡り、本来業務の互いのバックアップも共同で行っています。

私たち施設管理室の要であるライフラインが重要であることは震災からも明らかです。患者さんの療養環境や職員の明るい職場環境の維持・管理は私たちの業務です。今後とも必要とされる職場でいられるよう頑張ります。

施設管理室長・ボイラー技士長 佐藤 一哉



**人事異動**



【令和2年7月31日付】 辞職  
安藤 幸子 理学療法士  
川端 香子 保育士  
【令和2年8月31日付】 辞職  
佐藤 梨恵 看護師

【編集後記】 家で過ごす時間が多くなり、テレビ、スマホ、読書で過ごされているかと思います。私は普段テレビを見ないのですが、唯一録画して見ている番組が「駅ピアノ」という番組です。駅に置いてあるピアノに定点カメラを設置してそこに集い演奏する様子をインタビューを交えながら紹介しています。様々な人々がスタンダードから前前前世まで幅広く演奏しているので、見ていて飽きません。(O.I)